



儒学者。昌平黌教授。宇摩郡川之江村(現、四国中央市)出身。本名は孝肇。通称は良佐。5歳のとき右足の犬怪我がもとで足が不自由となったが、二洲の将来を思った祖父の勧めで、学問で身を立てることを決意し、川之江の宇田川楊軒に萩生徂徠の教えを学んだ後、24歳で大坂(現、大阪府)に出てさらに学問に励んだ。学び続ける中で徂徠の教えへの疑問を持った二洲は、朱子学と出会う。徂徠の教えから朱子学に転じた二洲は大坂に私塾を開き、朱子学の普及に尽くす。

寛政の改革を推し進めた老中の松平定信により、幕府の学問所である昌平黌(昌平坂学問所)教授となり、約20年間にわたり、朱子学を再び盛んにすることに努力し、柴野栗山・岡田寒泉とともに寛政の三博士と呼ばれた(後に、三博士は、岡田寒泉に代わり古賀精里が入った)。

略歴

- | | |
|------------------|---|
| 延享4(1747)年10月8日 | 宇摩郡川之江村に生まれる(延享2年とする説もある)。 |
| 宝暦元(1751)年 | 5歳の時、右足を負傷し、その後、足が不自由になる。 |
| 宝暦10(1760)年 | 川之江の宇田川楊軒に学ぶ。 |
| 明和7(1770)年 | 大坂の片山北海に学ぶ。 |
| 安永元(1772)年 | 大坂の上街に伊予屋良佐の名で塾を開く。 |
| 安永6(1777)年 | 『素養録』を著す。 |
| 天明4(1784)年 | 『正学指掌』を刊行 |
| 寛政3(1791)年 | 幕府に用いられて、昌平黌の教授となる。 |
| 文化8(1811)年 | 昌平黌を退任 |
| 文化10(1813)年12月4日 | 67歳で永眠。墓所は、江戸の儒学者の墓地である東京都文京区大塚の儒墓所
(銅像：四国中央市歴史考古博物館-高原ミュージアム) |

〈関連図書〉

- ・田中歳雄『愛媛県の歴史』 山川出版社 1973年
- ・白木豊『尾藤二洲伝』 尾藤二洲伝頒布会 1979年
- ・影山昇『愛媛県の教育史』 思文閣出版 1983年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第6巻 中江藤樹・尾藤二洲・近藤篤山』
愛媛県教育会 1984年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・杉田幸三『江戸学者おもしろ史話』 毎日新聞社 1992年
- ・三木忠『郷土に残る尾藤二洲先生遺墨集』 1996年
- ・石津ちひろ・高山ケンタ『尾藤二洲ものがたり』 川之江ライオンズクラブ 2007年
- ・記念遺墨集編集委員『尾藤二洲没後二百年祭記念遺墨集』 尾藤二洲顕彰会 2016年

〈ゆかりのある場所〉…(P265, 6)

〈関連施設〉…四国中央市歴史考古博物館-高原ミュージアム

〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町2217-83 TEL: 0896-28-6260